

未来医療研究人材養成拠点形成事業 申請書

申請担当大学名 (連携大学名)	国立大学法人九州大学		
テーマ	テーマB	申請区分	単独事業
事業名 (全角20字以内)	地域包括医療に邁進する総合診療医育成 -九州大学総合診療科を活用した総合的臨床とヘルスサービスリサーチ教育プログラム-		

1. 事業の構想 ※事業の全体像を示した資料(ポンチ絵1枚)を【様式2】の後ろに添付すること。

(1) 事業の全体構想

①事業の概要等

<p>〈テーマに関する課題〉</p> <p>我が国の医学・医療技術のレベルは、研究者・臨床医らの研鑽によって世界でも最高水準にある。しかし一方で、高齢化により複雑化した多臓器にわたる病像に対応できる医師の不足という問題に留まらず、介護難民、がん難民、自殺などの深刻な問題が議論されるようになり、これらの身近な問題に対して包括的な対応が求められている。地域医療を支える医師には、高齢者特有の複数臓器にわたる多彩な疾患への理解を基礎に、<u>初期一般内科治療を適確に実践し、各領域による専門的治療の必要性を遅滞なく診断する臨床力</u>が必要である。また、高齢者の診療には、健康支援・自立支援・介護支援において家庭や地域社会の様々な問題が絡むため、病診連携も含め、<u>包括的に多職種と連携してリーダーシップを取る力</u>が必要である。さらに、高齢化に伴い激変する地域医療の本質を正確に評価・分析・考察することにより「生活と調和した地域医療」の実現に様々な角度から貢献するためのリサーチマインドを持つことも求められる。これらの資質を持つ医師こそが、これからの包括的地域医療を切り開く総合診療医である。</p> <p>総合診療医を育成するためには、全体として領域別・臓器別の臨床教育に重点が置かれている現在の卒前医学教育、初期臨床研修、後期専門研修に、地域医療を担う総合診療医育成に最適化された教育プログラムを追加することが必要である。また、一旦就業した医師を対象とする生涯教育に目を向けると、国試合格者の3割を占めるようになった女性医師が「職業」と「子育て」を両立させていくために、地域医療への貢献が期待されているほか、領域別専門医が包括的地域医療に参入するキャリアパスへの支援も含め、上記の地域医療を支える医師に求められる能力を育成する生涯教育プログラムが必要である。</p> <p>〈事業の概要〉(400字以内厳守)</p> <p>九州大学病院、医学系学府、関連医療機関が連携し、学部、初期・後期研修、大学院教育を通じて、包括的地域医療の中心を担う総合診療医を育成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域医療関連授業および臨床実習を系統化・拡充することによる、学部教育における動機付け 2. 後期研修・大学院に総合診療医コース設置。女性医師・専門医のためのインテンシブコース設置など、研修医教育に留まらない間口の広い教育体制 3. 総合診療科・小児科・救命救急センターを中心とした一般内科・小児科初期診療と一次～三次救急診療教育 4. 総合内科3講座の長期ローテートを柱にした総合内科学研修教育 5. 心身医学・老年医学・環境医学および医療経営・管理学専攻分野等大学院と九州大学病院リハビリテーション科による「ヘルスサービスリサーチ」教育 6. 地域医療研修を通して地域連携・病診連携教育 7. 九州大学病院総合診療科が以上の教育・研修を統合し「総合診療医コース」を運営
--

②新規性・独創性

●九州大学病院総合診療科を中心とした学部から継続性のある教育プログラム

九州大学病院総合診療科は、設立25年を迎える全国的に有数の総合診療機関であり、「日本病院総合診療医学会」の事務局が設置されている。本プログラムでは、総合診療科が中心となって学部教育に始まる総合診療教育を行う。

- ・九州大学医学部学生に、取組の趣旨に基づき系統化された地域医療・総合診療関連授業科目を履修させ、5年生時には九州大学病院総合診療科および地域医療臨床実習協力病院における実習を義務づけることにより、学部教育において地域医療の魅力と重要性を理解させる。
- ・後期研修医および臨床大学院に新たに設置する「総合診療医コース」の医師・院生に対し、下記の研修コースを用意する。
- ・総合診療医教育と臨床系大学院を含む専門医教育を連結し、学部、初期・後期研修、臨床系大学院、インテンシブコースのそれぞれの学生・医師に対し、柔軟に研修コースを設定する。

●専門医および博士課程大学院生としてのキャリアパスとの両立を確保

本コースには、あらゆる領域の専門医を目指す医師も受け入れる。例えば後期研修医の場合、残りの研修期間は専門医取得のための研修期間とし、取得までに必要な臨床研修を、研修期間延長も含めて該当する専門分野で決定する。また、臨床系大学院総合診療医コースに所属すれば、下の総合診療医臨床研修期間を挟んで大学院担当部局において研究を行うことにより、博士課程を修了できる。

●総合診療医としての幅広い臨床力の育成（対象：後期研修医、臨床系大学院総合診療医コース：総計2年～2年半程度）

・九州大学病院総合診療科を要とした実地的総合臨床教育（半年～1年間）

九大病院総合診療科において行われている総合診療実習教育を行う。九州大学病院小児科および九州大学病院救命救急センター、小児救命救急センターと連携しながら、内科初期診療、一～二次救急診療を集中的に研修する。

- ・「実践的総合診療力」を研ぐための、3つの総合内科における長期ローテーション研修（1年～1年半）

九州大学は旧内科大講座を完全解体せず、分離・改変により3つの総合内科領域を新たに創設し、複数臓器の疾患に対応できる内科医師を育成してきた。現在は、病態修復内科（血液・腫瘍・循環器内科および免疫・感染症・膠原病内科）、病態機能内科（消化管内科および腎・高血圧・脳血管内科）病態制御内科（内分泌代謝・糖尿病内科および肝臓・膵臓・胆道内科）の3総合内科に分かれている。本コースでは、さらに各診療科の枠を超え、上記3総合内科を各々6ヶ月、計2総合内科以上を研修する徹底した総合内科教育を実現する。

●包括的地域医療リーダーとしての素養を研く「ヘルスサービスリサーチ」の修得（対象：後期研修医・臨床系大学院・インテンシブコースの医師）

ヘルスサービスリサーチ（Health Service Research）は、欧米諸国では重要な医学教育のひとつと位置づけられている。これは、医療を科学的視点から包括的に評価・分析し、医学、社会学、人類学等の学際的視点から研究することで、患者に還元できる医療の質の向上を目指す学問であるが、わが国では、その教育システムは殆ど存在しない。本プログラムでは、九州大学独自の実践的ヘルスサービスリサーチに関する講義を行うことにより、地域医療を客観的に捉え種々の問題を抽出・解決する「家庭・地域の問題解決のためのサイエンス」を学び、キャリアを通じて医師が多地域の包括ケアシステムに積極的に関わっていく意欲を育む。

・「良い医療を作るため」のヘルスサービスリサーチの理論教育（コース全員を対象として年1回3ヶ月間程度開講）

九州大学大学院医療経営・管理学専攻は、2001年に医療経営・管理学に特化して研究・教育を行う公衆衛生系大学院として日本ではじめて設置された。ヘルスサービスリサーチの研究・教育を実践し、地域医療を支える医療関係者の社会人教育を行い、地域で活躍する医師を含む卒業生を数多く送り出してきた実績がある。本プログラムでは、高齢化社会を取り巻く患者を軸としたコミュニケーションの機能と可能性、社会のニーズに対応した公正で効率の良い医療システムの構築のあり方、など総合診療医に必要な「ヘルスサービスリサーチ」理論の基本を教育する。

・心療内科・環境医学・老年医学・リハビリテーション医学によるヘルスサービスサイエンスの実践的教育（後期研修、臨床大学院、インテンシブコースの医師に対し上記理論教育と共に義務化する。内容・期間は個別に対応）

高齢者の診療には、家庭・地域・経済的問題など多要素が関わる。九州大学の大きな特色である、心療内科・環境医学・老年医学・リハビリテーション医学関連教育を集中的に行うことにより、「家庭・地域の問題解決に向けたサイエンス」を学ぶ。九州大学心療内科は、設立以来50年にわたる多職種によるチーム医療実践の歴史を持ち、高度なノウハウと豊富な実績を有している。本プログラムでは、様々なケース・スタディを通して、身体的、心理的、社会的次元から患者特有の問題を抽出し、解決する能力を培う。九州大学環境医学分野においては、世界有数の前向き地域コホートである久山町研究を基礎とした脳卒中、悪性腫瘍、認知症、糖尿病、高血圧などの疾病の疫学研究を、老年医学分野では、高齢化社会の医療課題の解決に繋がる老年病の病態研究や生活習慣病など、九州大学周辺住民を対象とした予防医学の先端研究例を教育する。また、九州大学リハビリテーション科において、高齢者の残存機能を尊重し、機能回復を図る現場を研修させる。

●緊密な地域連携協定による実地的総合診療臨床研修

九州大学病院は、111機関にのぼる医療機関と地域連携協定を結んでおり高齢者医療を含めた地域連携や病診連携の成功例を学ぶための講義や臨床研修を新たに設定する。また、「高度医療人養成プログラム」「広域ネットワーク型臨床研究推進事業」など、連携を利用した教育システムがある。さらに、女性医師の復職を援助する「九州大学病院きらめきプロジェクト」などがすでに動いている。一度、出産、子育てのために職を離れた女性医師を総合診療医として育成すれば、地域医療に大きな貢献が期待できる。そこで、これらの事業と連携して医師をインテンシブコースに導き、より多くの総合診療医育成を目指す。

③達成目標・評価指標

期待される総合診療医像：

高齢化により複雑化した多臓器にわたる病像に対応できる医師の不足という問題に留まらず、介護難民、がん難民、自殺などの身近で深刻な問題に対して、これからの包括的地域医療を切り開く、以下の資質を具有する総合診療医を社会に輩出する。

- ①高齢者特有の複数臓器にわたる多彩な疾患への理解を基礎に、初期一般内科治療を適確に実践し、各領域の専門的治療の必要性を遅滞なく診断する臨床力
- ②健康支援・自立支援・介護支援において家庭や地域社会の様々な問題を解決するために、病診連携も含め、包括的に多職種と連携してリーダーシップを取る力
- ③高齢化に伴い激変する地域医療の本質を正確に評価・分析・考察することにより「生活と調和した地域医療」の実現に様々な角度から貢献するためのリサーチマインド

達成・評価目標：

- (1) 領域別・臓器別の臨床教育に重点が置かれている現在の卒前医学教育、初期臨床研修、後期専門研修および臨床系大学院に、包括的地域医療を担う総合診療医を育成する教育プログラムを追加し、修了者を輩出する（10名/年程度）。
- (2) 一旦就業した医師、例えば国試合格者の3割を占めるようになった女性医師が職業と子育てを両立するために、あるいは領域別専門医が包括的地域医療に参入するキャリアパスを支援するために、包括医療を支える医師育成生涯学習プログラムを実施する（3名/年程度）。

修了認定：

プログラム実行委員会がコース全体を管理し、各コース・プログラムの実施主体に応じて、医学部医学科、大学病院、大学院医学系学府がそれぞれ修了認定を行う。

④医学生・男女医師のキャリア教育・キャリア形成支援（※取組がない場合は記入不要）

本院では出産、子育てで医療現場を離れざるを得ない女性医師に対して、医療人G Pの発展型である「九州大学病院きらめきプロジェクト」により女性医師のキャリア養成支援を強力にサポートしている。今回、本プロジェクトと連携して新たに設けたインテンシブコースに、出産・結婚後の女性医師をキャリア形成支援の一環として導き、総合診療医への道筋を用意する。また、男性、女性を問わず、専門医取得後に地域医療に貢献する医師にも、インテンシブコースによる総合診療医トレーニングを用意する。女性医師の活躍及びキャリア形成支援が、過酷な労働環境下にある医療全体の勤務環境の改善につながることは自明であるが、さらに開業医を含む地域に根

ざした医療を志す医師にも地域包括ケアの基本を理解させ、医療全体の負担を軽減すべきである。このインテンシブコースを将来的に生かすためにも、医学生時から地域医療に触れさせ、総合診療医の必要性を理解させておくことも必要であり、九州大学医学科においては、地域医療・総合診療関連授業を行い、さらに連携病院111機関の協力の下、地域医療実習を全員に体験させる。

(2) 教育プログラム・コース → 【様式2】

2. 事業の実現可能性

(1) 事業の実施体制

全体のプログラムは、九州大学総合診療科が、医学研究院、九州大学病院、九州大学病院臨床教育研修センター、地域関連医療施設、九州大学病院きらめきプロジェクトキャリア支援センターの協力のもと運営・実行する。

医学科のプログラムについては医学科・生命科学科会議および同教務委員会が、臨床系大学院のプログラムおよび専門医取得後のインテンシブコースについては医学・医科学専攻会議および同大学院委員会が、それぞれプログラムの企画立案・評価、大学院生および科目等履修生の単位認定を行う。

九州大学病院に設置された院内プログラム実行委員会が、全プログラムの管理、運営を担当し、九州大学病院長が認めた指導医が実習・研修の指導を行う。

具体的な事業実施にあたっては、プログラムコーディネーター制を導入・配置し、事前準備、実習・研修対象者と地域医療施設指導者などとの連携及び調整を行う。

研修の透明性を確保するとともに、質の向上を図るため外部評価委員会を設置し、プログラムなどに対して評価と助言を受け、時機にかなったプログラムの修正を行いながらプログラムの質向上に努める。

(2) 連携体制（連携大学、自治体、地域医療機関、民間企業等との役割分担や連携のメリット等）

九州大学病院関連病院は、111機関存在し、相互協力の一環として学生実習・医師研修に参加する。特に、関連病院長会議においては、定期にプログラムの進捗・実行状況を確認するのみならず、地域医療の現場である病院側からの意見を汲み上げ、本プログラムの改良に生かす。また、臨床研究会（九州総合診療セミナー：年6回、九州総合診療研究会：年2回を予定）において、各コースで研修中の医師が経験した地域医療症例検討を行う。さらに、この検討会において関連病院長にも研修レベルの確認及び評価を依頼する。このような活動を広げることにより、コースそのものを充実させるのみならず、地域医療機関に在籍する各分野の専門医に対しても総合診療医の重要性を認識させ、例えばインテンシブコースへの入学者を増やすよう努力する。

(3) 事業の評価体制

院内プログラム実行委員会が、研修終了者及び指導医からの評価により自己評価を行う。さらに、外部評価委員会の指導を受け、研修プログラム全体、研修医募集・採用計画、その他必要と認められる事項について、年1回定期的な客観的な評価とプログラムの見直しを行う。外部評価委員会は、県医師会推薦の医師、有識者などの数名からなり、プログラムの透明性を確保するとともに、質の向上を図る。平成27年度修了時には、中間評価報告書を作成、平成29年度事業終了時にも全体評価報告書を作成する。

(4) 事業実施計画

25年度	<p>① 8～9月：プログラム制度管理のための院内プログラム実行委員会の設置 プログラム実行支援のためのプログラムコーディネーターの選定</p> <p>② 8～10月：研修レベル確認のための臨床研究会(総合診療セミナー6回、総合診療研究会：2回)の選定(総合診療セミナー：年6回、総合診療研究会：年2回)の選定</p> <p>③ 8～3月：学部学生、初期研修医、総合診療医コース(後期研修医)の受け入れのための地域医療機関の選定、指導医の認定</p> <p>④ 8～3月：プログラムの実行状況の確認のための外部評価委員会の設立</p> <p>⑤ 8～3月：教育プログラム・コースの設置準備</p>
26年度	<p>⑥ 2月：第2回外部評価委員会の開催</p> <p>⑦ 3月：第2回プログラム実行委員会の開催</p> <p>⑧ 3月：臨床研究会(総合診療セミナー6回、総合診療研究会：2回)の選定・開催</p> <p>⑨ 3月：関連病院長会議における報告会・討論会及び研修会の開催(以後、毎年開催)</p> <p>⑩ 3月：総合診療医育成のための教材開発開始(以後、プログラム終了まで継続)</p>
27年度	<p>⑪ 2月：第3回外部評価委員会</p> <p>⑫ 3月：第3回プログラム実行委員会の開催</p> <p>⑬ 3月：臨床研究会(総合診療セミナー6回、総合診療研究会：2回)の選定・開催</p> <p>⑭ 3月：中間報告書の作成</p>
28年度	<p>⑮ 2月：第4回外部評価委員会</p> <p>⑯ 3月：第4回プログラム実行委員会の開催</p> <p>⑰ 3月：臨床研究会(総合診療セミナー6回、総合診療研究会：2回)の選定・開催</p> <p>⑱ 3月：指導医報告会・受講者研修会の結果を踏まえた新たな教育コースの設定を検討</p>
29年度	<p>⑲ 3月：臨床研究会(総合診療セミナー6回、総合診療研究会：2回)の選定・開催</p> <p>⑳ 3月：第5回外部評価委員会</p> <p>㉑ 3月：事業終了報告書の作成</p>

教育プログラム・コースの概要

大学名等	国立大学法人九州大学
プログラム・コース名	地域医療・総合診療教育プログラム（医学科）
対象者	学部学生
修業年限（期間）	6年間のうち体験学習：必修8コマ、講義・演習：必修169コマ、選択78コマ、臨床実習：必修15日、選択14週
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ●複数臓器に関連する病態に対応する総合診療のあり方と、地域医療の様々な問題を解決するための地域包括ケアシステムの存在意義を理解している学生 ●将来的に、医師として地域医療に貢献することへの必要性を理解している学生
修了要件・履修方法	<p>修了要件：各体験学習、講義・演習、臨床実習を履修し所定の単位を取得する。</p> <p>履修方法：選択授業は、事前に所定の授業の選択を希望する。</p>
履修科目等	<p>科目等(コマ数等)：</p> <p>【新規開講】地域医療・総合診療・性差医学入門(8)、ヘルスサービスリサーチ入門(8)【地域医療・総合診療関連授業】学外病院見学・体験学習(8)、周産期チーム医療入門(8)、インフォームドコンセント(10)、救急医療(7)、プライマリ・ケア(6)、老年病学(9)、リハビリテーション(4)、症候診断学(24)、公衆衛生学(13)、衛生学(27)、チーム医療演習(8)、臨床医学基本実習(71)、鑑別診断のための医療面接(6)、異常所見と病態生理(6)、臨床推論演習(12)、漢方診断学演習(12)【地域医療・総合診療臨床実習】地域医療(必修2日、選択4週間)、総合診療科(必修5日、選択4週間)、産婦人科(必修1日)、小児科(必修1日、選択2週間)、救命センター(必修5日、選択4週間)、整形外科(必修1日)</p>
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	各コース・プログラムは、九州大学の一貫した地域医療への取り組みを反映するものであり、伝統ある医療から最新の医療を網羅している。本コース・プログラムにより、学部学生は既存の地域医療・総合診療関連授業の重要性とその系統化について学ぶことができ、総合診療の観点から現代医療の問題点を把握する機会を得る。その結果複数疾患への幅広い知識、対応力、実践力を持った、全人的医療を行える総合診療医への憧れを喚起する。
指導体制	医学科のプログラムについては、医学科長（大学院医学研究院長）の指揮下、臨床系、特に内科系の各分野、医療経営・管理学講座および医学教育学講座が強力にサポートし、総合診療科および地域医療教育ユニットの教職員が中心となり指導する。
受入開始時期	平成26年4月

受入目標人数	対象者	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	計
	医学科2年生	—	30	111	111	111	363
	医学科3年生	—	10	10	10	10	40
	医学科4年生	—	105	111	111	111	438
	医学科5年生	—	105	105	111	111	432
	医学科6年生	—	6	6	6	6	24
	計	0	256	343	349	349	1,297

教育プログラム・コースの概要

大学名等	国立大学法人九州大学
プログラム・コース名	後期研修・総合診療医コース（病院）
対象者	後期研修医(卒後3年以降)(他大学、自治医大卒業生などへの開放、非入局も可) 九州大学病院研修医は、初期研修開始時から本コースを選択することができる。その場合、初期研修プログラムも後期研修予定に合わせて柔軟に設定する。
修業年限（期間）	2～2.5年間。実地的総合臨床教育を計0.5～1年間、総合内科ローテートを計1～1.5年間。ヘルスサービスリサーチ講義を3ヶ月程度（ヘルスサービスサイエンス実践教育は個別に対応）
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ● 初期一般内科治療を適確に実践し、各領域による専門的治療の必要性を遅滞なく診断できる医師。 ● 多様な医療職・介護職と連携して地域包括ケアシステムにおいてリーダーシップを取ることができる医師。 ● 「生活と調和した地域医療」の実現に様々な角度から貢献するためのリサーチマインドを持つ医師
修了要件・履修方法	<p>修了要件：以下の科目を履修すること。</p> <p>履修方法：九州大学病院後期専門研修プログラムに応募し、所定の様式で本コースの研修を希望する。</p>
履修科目等	<p>科目等(期間、研修先等)：</p> <p>【必修】実地的総合臨床教育(3～6ヶ月、総合診療科、小児科、救命救急センター)、総合内科長期ローテート(12～18ヶ月、病態修復内科、病態機能内科、病態制御内科)、ヘルスサービスリサーチ講義(3ヶ月程度)、【選択】ヘルスサービスサイエンスの実践的教育(期間は個別対応、心療内科、環境医学、老年医学、リハビリテーション医学)</p>
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	<p>九州大学病院および医学科大学院のメンバーが、九州大学病院総合診療内科の指揮により統制された総合診療医教育を行う。特に、総合内科3講座による長期ローテート研修は、他大学にない理想的な総合診療教育システムとして機能すると考えられる。本コース・プログラムにより、後期研修においてさらに幅広く深い総合診療の実践能力を修得するとともに、ヘルスサービスリサーチの理論を学ぶことにより、包括医療へ将来的に積極的にかかわる意欲を育てる。その結果複数疾患への幅広い知識、対応力、実践力を持った、全人的医療を行える総合診療医を地域医療へ輩出することが可能となり、総合診療医育成のスタンダードが確立される。</p> <p>さらに、残りの後期研修期間は、専門医に向けた研修を優先することにより希望者には専門医資格取得を妨げないコースを組む。</p>
指導体制	<p>研修プログラムについては、病院長の指揮下、臨床各科、臨床教育研修センター、地域関連医療施設、病院きらめきプロジェクトキャリア支援センターが強力にサポートし、総合診療科の教職員が中心となり指導する。</p> <p>九州大学病院長が認めた指導医が実習・研修の指導を行う。</p> <p>プログラムコーディネーターを配置し、事前準備、実習・研修対象者と地域医療施設指導者などとの連携などの調整を行う。総合診療研修、ヘルスサービスサイエンス履修に関しては、各領域の専門医および指導医を適切に配置して行う。</p>
受入開始時期	平成26年4月

受入目標人数	対象者	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	計
	初期研修医	—	2	2	2	2	8
	後期研修医	—	2	2	2	2	8
	計	0	4	4	4	4	16

教育プログラム・コースの概要

大学名等	国立大学法人九州大学						
プログラム・コース名	臨床系大学院・総合診療医コース（大学院）						
対象者	大学院医学系学府博士課程臨床研究専門教育コース学生(卒後3年以降)						
修業年限（期間）	2～2.5年間。実地的総合臨床教育を計0.5～1年間、総合内科ローテートを計1～1.5年間。ヘルスサービスリサーチ講義を3ヶ月程度（ヘルスサービスサイエンス実践教育は個別に対応）						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ●初期一般内科治療を適確に実践し、各領域による専門的治療の必要性を遅滞なく診断できる医師 ●多様な医療職・介護職と連携して地域包括ケアシステムにおいてリーダーシップを取ることができる医師 ●「生活と調和した地域医療」の実現に様々な角度から貢献するためのリサーチマインドを持つ医師 						
修了要件・履修方法	<p>修了要件：博士課程に4年以上在学し、各コースで定められた単位数を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本学府の行う博士論文の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>履修方法：九州大学大学院医学系学府医学専攻博士課程を受験し、所定の様式で本コースの履修を希望する。</p>						
履修科目等	<p>科目等(単位、期間等)：</p> <p>【必修】医学研究基盤セミナー、低年次共通科目(5単位)、実習科目(12単位、3ヶ月、総合診療科、小児科、救命救急センター)、臨床研究専門教育科目(7単位、ヘルスサービスリサーチ講義を含む)、専門科目(18単位)、【選択】ヘルスサービスサイエンスの実践的教育(期間は個別対応、心療内科、環境医学、老年医学、リハビリテーション医学)</p>						
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	<p>九州大学病院および医学科大学院のメンバーが、九州大学病院総合診療内科の指揮により統制された総合診療医教育を行う。特に、総合内科3講座による長期ローテート研修は、他大学にない理想的な総合診療教育システムとして機能すると考えられる。本コース・プログラムにより、後期研修においてさらに幅広く深い総合診療の実践能力を修得するとともに、ヘルスサービスリサーチの理論を学ぶことにより、地域包括ケアへ将来的に積極的にかかわる意欲を育てる。その結果複数疾患への幅広い知識、対応力、実践力を持った、全人的医療を行える総合診療医を地域医療へ輩出することが可能となり、総合診療医育成のスタンダードが確立される。</p> <p>さらに、研修期間を通じて各臨床系大学院での研究に適宜参加し研究の連続性を保つとともに、コース終了後に博士課程を修了できるように準備する。</p>						
指導体制	<p>大学院のプログラムについては、医学系学府長（大学院医学研究院長）と九州大学病院長が協力し、臨床系、特に内科系の各分野、医療経営・管理学講座が強力にサポートし、総合診療科の教職員が中心となり指導する。プログラムコーディネーターを配置し、事前準備、実習・研修対象者と地域医療施設指導者などとの連携などの調整を行う。総合診療研修、ヘルスサービスサイエンス履修に関しては、各領域の専門医および指導医を適切に配置して行う。</p>						
受入開始時期	平成26年4月						
受入目標人数	対象者	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	計
	大学院生	—	6	6	6	6	24
	計	0	6	6	6	6	24

教育プログラム・コースの概要

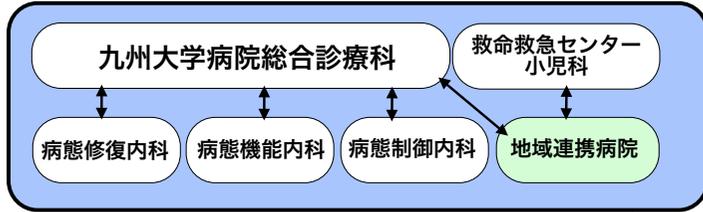
大学名等	国立大学法人九州大学						
プログラム・コース名	インテンシブ総合診療医コース						
対象者	専門医取得後医師（復職希望の女性医師を含む）						
修業年限（期間）	九州大学関連病院総合診療科における研修（3～6ヶ月）およびヘルスサービスリサーチ講義（3ヶ月程度）。ヘルスサービスサイエンス実践教育は個別に対応する。希望により、九州大学病院における総合診療研修も可能						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ●専門医・医学博士として専門性を保ちながら、複数臓器に関連する病態に対応できる総合診療医 ●地域医療の様々な問題を科学的に解析、理解し、多職種と連携して能動的に新しい医療のあり方を実現する力のある総合診療医 ●結婚・出産後、総合診療医としての技術を身につけ現場に復帰する女性総合診療医 						
修了要件・履修方法	<p>修了要件：九州大学病院、地域医療施設の指導医の評価報告を受けて、院内プログラム実行委員会で総合的評価を行い、病院長が修了認定を行う。ヘルスサービスリサーチ教育については、別途大学院医学系学府の単位認定を要する。</p> <p>履修方法：大学院医学系学府にヘルスサービスリサーチ教育の科目等履修生として申請し、医学・医科学専攻会議において承認を受ける。</p>						
履修科目等	<p>科目等(単位、期間等)：</p> <p>【必修】ヘルスサービスリサーチ講義(3ヶ月程度)、【選択】ヘルスサービスサイエンスの実践的教育(期間は個別対応、心療内科、環境医学、老年医学、リハビリテーション医学)</p>						
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	九州大学病院および医学科大学院のメンバーが、九州大学病院総合診療内科の指揮により統制された総合診療医教育を行う。すでに専門領域は完成された医師であるため、主として九州大学関連病院総合診療科において総合診療研修を行う。しかし、希望により、総合内科3講座による長期ローテート研修も可能とする。本コース・プログラムにより、ヘルスサービスリサーチの理論を学ぶことにより、地域包括ケアへ将来的に積極的にかかわる意欲を育てる。その結果複数疾患への幅広い知識、対応力、実践力を持った、全人的医療を行える総合診療医を地域医療へ輩出することが可能となり、総合診療医育成のスタンダードが確立される。						
指導体制	<p>研修プログラムについては、病院長の指揮下、臨床各科、臨床教育研修センター、地域関連医療施設、病院きらめきプロジェクトキャリア支援センターが強力にサポートし、総合診療科の教職員が中心となり指導する。</p> <p>九州大学病院長が認めた指導医が実習・研修の指導を行う。</p> <p>プログラムコーディネーターを配置し、事前準備、実習・研修対象者と地域医療施設指導者などとの連携などの調整を行う。総合診療研修、ヘルスサービスサイエンス履修に関しては、各領域の専門医および指導医を適切に配置して行う。</p>						
受入開始時期	平成26年4月						
受入目標人数	対象者	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	計
	専門医等	—	3	3	3	3	12
	計	0	3	3	3	3	12

九州大学総合診療科を活用した総合的臨床とヘルスサービスリサーチ教育プログラム

九州大学病院総合診療科が中心となって教育プログラムを運営

- 強み**
- 創立25周年を迎える九州大学病院・総合診療科が中心となり多方面からプログラムを充実
 - 学部からの継続性を重視、さらに、後期研修医・大学院生・専門医・女性医師に対し広く門戸を開放
 - 九州大学病院および大学院の協力による研修の柱：総合臨床研修とヘルスサービスリサーチ

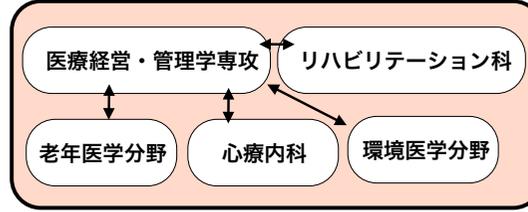
①総合診療研修



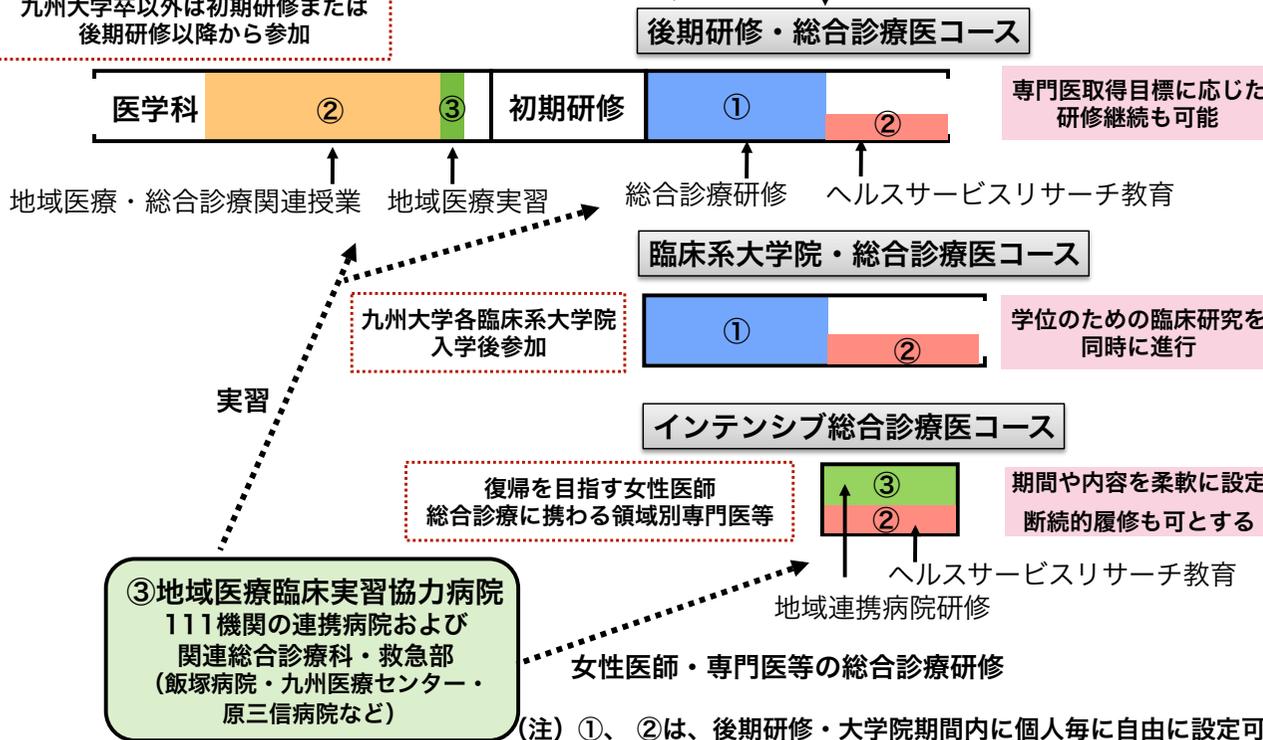
- 実践的総合診療力を研ぐための長期ローテート研修（2～2年半程度）

九州大学卒以外は初期研修または後期研修以降から参加

②ヘルスサービスリサーチ教育



- 家庭・地域の問題解決のためのサイエンス（毎年コースを開催）



養成すべき人材像

- 初期一般内科治療を適確に実践し、各領域による専門的治療の必要性を遅滞なく診断できる
- 多様な医療職・介護職と連携して地域包括ケアシステムにおいてリーダーシップを取ることができる
- 「生活と調和した地域医療」の実現に様々な角度から貢献するためのリサーチマインドを持つ

コースの概要

- 九州大学医学科学生に、地域医療・総合診療関連授業を履修させ、5年生時には九州大学病院総合診療科および地域医療臨床実習協力病院における実習の義務づけ（学生全員）
- 後期研修医および臨床系大学院に「総合診療医コース」を新たに設置。総合診療医教育と専門医・博士課程教育を連結して柔軟に研修コースを設定（年計10名程度）
- 結婚・出産後復帰を目指す女性医師、開業などで地域医療に従事する領域別専門医等のために、インテンシブコースを設置（年3名程度）

期待される結果(Output)

- 専門医・医学博士として専門性を保ちながら、複数臓器に関連する病態に対応できる総合診療医
- 地域医療の様々な問題を科学的に解析、理解し、多職種と連携して能動的に新しい医療のあり方を実現する力のある総合診療医
- 結婚・出産後、総合診療医としての技術を身につけ現場に復帰する女性総合診療医
- 以上の様々な背景を持つ総合診療医の育成による、地域包括ケアシステムの質の向上と高効率化